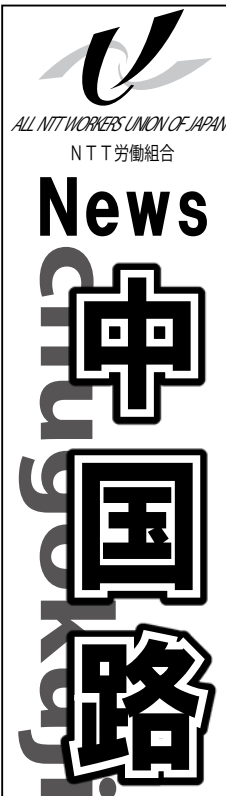


強固な経営基盤の確立を

～「申入書」に対する回答交渉～



発行所
NTT労組中国総支部
発行責任者 大本 誠
編集責任者 洲濱 泰久
広島市中区基町 6-77
TEL082-226-3733
FAX082-226-3283

中国総支部は八月二一日に中国事業本部および各ミツション会社等に「申入書」を提出し、九月四日に回答交渉を行なった。

回答交渉にあたり会社側から次のとおり見解が示された。

「労使関係に対する基本的な考え方」

これまで築き上げてきた労使信頼関係の維持とさらなる発展に努める。

「安全と健康」

安全労働と健康管理は、事業運営の根幹を成すものであり「安全と健康はすべてに優先すべきものである」との認識の上で、特に作業中の人身事故ゼロに向けた各種安



▲回答書の手交模様

投票用紙を受け取り必ず投票を

NTT企業年金基金互選代議員選挙
NTT健康保険組合互選議員選挙

中国総支部は「**日野 達弥**」さんを支援しています。



【略歴】

- 1990年 兵庫東支部執行委員
- 1998年 兵庫県支部執行委員
- 2000年 兵庫県支部事務局長
- 2002年 兵庫総支部事務局長
- 2008年 西日本本部執行委員
- 2013年 西日本本部事務局長
- 2015年 中央執行委員 (企画組織部長)

「中国ブロックにおける経営基盤の確立」

「飛躍のステージへ」の加速に向け、三本柱の取り組みの強化と各種マイングレーションの完遂に向け取り組む。



▲会社回答に対し発言する 大本委員長

活躍する組合員さんをご紹介します。

第45回全日本社会人選手権大会

■一般男子

NTT西日本グループシンボルチームソフトテニス部

- 優勝 丸中 大明 (広島設備分会)
- 長江 光一 (アクト広島分会)
- 準優勝 水澤 悠太 (アクト広島分会)
- 村上 雄人 (広島分会)
- 第3位 船水 雄太 (アクト広島分会)
- 林 大喜 (広島分会)



▲左写真 丸中選手、長江選手
▲右上写真 水澤選手、村上選手
▲右下写真 船水選手、林選手



「今後の事業環境の変化をふまえた人員政策」

人材の確保・育成と人員政策の検討について、県域および各分野における業務量・人員状況等をふまえて検討を進める。

これを受け、藤本交渉部長は①各種施策の推進と展開にあたり、すべての組合員・社員へ目的・目標がしっかり共有され、カンパニー全体が一体となって取り組むことが重要と認識する②「飛躍のステージへ」では段階的に移行を進める中で確認されている課題に対して対処を施し、早期の体制確立に向けた着実な取り組みを要請する③各

種取り組みの展開・推進時においては、職場段階での論議期間を意識し、スピード感をもった対応を要請する——と強調した。

次に、安達事務局長は、不払い労働絶滅について、経営状態が概ね順調である時こそ、いま一度気を引き締め、不払い労働がないよう、各職場



▲回答交渉模様 (事業本部)

の上長による点検を再度要請した。

大本委員長からは、通信建設業界で一月に実施される全国一斉休工日の理解と実現に向けた協力を求めた。

会社側からは①施策に該当する職場だけでなく、業務との関係を考慮して施策の共有を図る②「飛躍のステージへ」の体制見直しでは職場から意見があがっていることも認識しており、早期に対処し、効果が出せるように取り組み③各種取り組みにおいては、早期の情報共有により十分な論議期間の担保を図る④不払い労働は犯罪であるとの認識の下、さまざまな取り組みで防止を図る⑤通信建設業界の「一斉休工日」は、機会をとらえて職場へ共有を図る——との見解が示された。

最後に大本委員長から「会社回答書において、あらためて労使関係について認識し合えた。

今後、各種施策の展開にあたり、労使間論議を重ね、双方が責任を持ち、取り組むことが重要である」と発言し団体交渉を終了した。

中国総支部「親子ピースタディ」

参加者の声を裏面に掲載中

親子ピーススタディに参加して

参加者の紹介と「思い・感想」



中国総支部は8月6日、に広島市内において『親子ピーススタディ』を開き、各分会より、11組の親子（孫）が参加し、平和について親子で考えるとともに、参加者家族同士で交流を深めました。

今週から複数号にわたり参加した皆さんの思い・感想を紹介します。

※親子ピーススタディの様子は、News中国路715号（8月24日発行）をご覧ください。

広島分会 根平さん親子

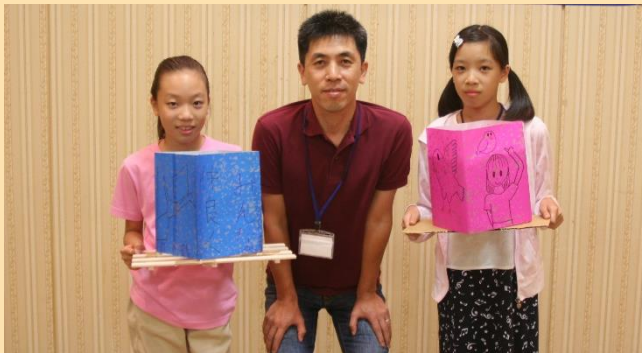


根平 幹大（小学1年）

あかいしかくいかみに4つマジックでえをかいて、ひろげてろうそくがついたぼうにつけて、とうろうをつくって、もとやすがわにながしました。



広島分会 吉川さん親子



▲吉川佳菜子（小学4年）写真左端

私が一番心に残ったことは、灯ろうを作ったり流したりしたことです。

私は、最初に折り鶴をかこうとおもいました。でも、どんなふうにかけばいいか分からなかったので、資料を見てもなかったので、しよりのハトをかくことにしました。

折り鶴は、お父さんが見つけてくれたのでかきました。でも、変になりました。

最後の面は、言葉にしました。「せんそうをやめる」とかは、私達にはあまりできないので、「けんかをしない」か「みんな仲良く」にしました。2つ目にしました。

中にろうそくを立てるときれいでした。

詩をよんでもらいました。1つ目の「人はおばけになる」と聞いて、「私もそう思った」と思いました。

私は、昔の人は、とても大変だったと知りました。今のくらしが続いてほしいです。

◀吉川陽菜子（中学1年）写真右端
私は、今年広島に引っ越してきたばかりで、原爆のことなどをあまり知りませんでした。なので、このイベントに参加しました。

私が、このイベントで、特に心に残ったのは、原爆詩の朗読です。3人のボランティアの方と、私たちとで、いくつかの詩を読みました。どの詩からも戦争や原爆のつらさ、苦しさなど、様々な思いが伝わってきました。この、いくつかの詩の中で、特に印象に残った詩は、「げんしばくだん」です。この詩は、たった3行しかありませんが、読んでいる人に、原爆の恐ろしさが伝わってきます。私は、「人はおばけになる」という部分を読んで、怖くなりました。

このイベントに参加して、学んだこと、体験したことは、広島の人にとって当たり前のことかもしれませんが、でも、私にとっては初めてのことでした。なので、このイベントが、平和について考えるきっかけになって、とてもよかったです。